

事業所保存・閲覧用

(実績報告時の添付書類などには、この表紙ではなく、当機関にご返送いただく
正本[評価者の個人名が記載されているもの]の表紙をコピーしてご使用ください)

平成27年度 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

2016年2月19日

社会福祉法人 稲城青葉会
城山保育園上石原 御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 清水 康之



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	②	H0303063	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	③	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	④	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑤		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	城山保育園上石原			
事業所連絡先	〒	182-0035		
	所在地	東京都調布市上石原3丁目8-10		
	TEL	042-490-2031		
事業所代表者氏名	城所 理恵			
契約日	2015年 10月 1日			
利用者調査票配布日(実施日)	2015年 10月 13日			
利用者調査結果報告日	2015年 12月 14日			
自己評価の調査票配布日	2015年 10月 7日			
自己評価結果報告日	2015年 12月 14日			
訪問調査日	2015年 12月 21日			
評価合議日	2015年 12月 21日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査では開始時に調査の趣旨などを記した依頼状・園内掲示用のポスターなどで理解促進の一助とし、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付して回収率向上を図った。 事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p>
	<p>事業者が大切にしている考え(事業者の理念・ビジョン・使命など)のうち、特に重要なもの(上位5つ程度)を簡潔に記述 (関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 一人一人を大切にし、生きる力を培う保育への実践 2) 安心できる子育て支援環境を充実させる 3) マニュアルの見直しと人材育成による保育の質の向上 4) 定期的なアンケート・調査による利用者のニーズを知り、満足度を高める。 5) 子ども・保護者・職員・地域で協力し合って子どもの未来を支えていく「共育」を目指す。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p>
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>職員の専門的知識を高めることはもとより、個々の人間性を高め、保護者から信頼されるような職員</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保育のプロとして専門的な知識を高め、自信をもって仕事に取り組んでほしい。また、一人一人責任感を持ち、自分で考え判断できるようになることにより、仕事に対するやりがいをもってほしい。</p>

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯107(在籍児童数128)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は事業所と協議のうえ郵送または郵送と事業所内での回収との併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数	107
共通評価項目による調査対象者数	107
共通評価項目による調査の有効回答者数	63
利用者総数に対する回答者割合(%)	58.9

利用者調査全体のコメント

総合的な園に対する満足度は「大変満足」49.2%・「満足」44.4%の計93.6%と高い値を得ており、設問別では「食事」「配慮された行事日程」「整理整頓・清潔」「ケガ・体調変化への対応」など全16問中6問で80~90%台の高い支持を得ている。
 自由意見では「外遊びが多く泥んこになりながら遊ばせてくれ、先生方は皆優しく、いつも子どもの細かいところまで報告があり、行事の内容もとてもしっかりしていて魅力的」「全体の雰囲気がとても明るく清潔な印象で季節の装飾も楽しく、子どもの体調不良への対応も保護者の都合などを考慮してくれる」「季節感のある行事がたくさんあり、子どもも楽しく園生活を送っていて、悪いことは注意をしっかりとってくれるのも助かる」「体育指導・クッキング・アートなどを取り入れ、天気が悪い日の屋内遊びの工夫なども素敵で、先生方のフレンドリーさ、柔軟さ、たくさんのことを子どものために実施し、準備してくれるところもうれしい」などの声が寄せられている。
 さらなる向上を望む意見としては保護者の負担や就労等への配慮、設備や安全衛生、保護者への情報発信、職員の保護者や子どもへの接遇に関する事などが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	57	6	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が90.5%、「どちらともいえない」が9.5%となっている。 自由意見は11件で、「手作り季節の食材を使い、家庭での食事よりよほどバランスのよい食事で、子どももいつもお替りしている」「おやつがいつも手作りのもので安心できる」「それぞれ食べやすく、イベントなどもメニューを考えていてよい」などのほか、発達に応じた提供量や調理の配慮、メニューの充実などに関する意見も見られる。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	53	8	2	0
「はい」が84.1%、「どちらともいえない」が12.7%、「いいえ」が3.2%となっている。 自由意見は6件で、「晴れた日は外にお散歩へ行き、虫やドングリ・木の实拾い等、たくさんの自然に触れていて毎日楽しそうだ」「いつもいろいろなお散歩の機会を作ってくれていてうれしく思っている」「丈夫な子になってほしいので、毎日外で遊んでいるようでうれしい」などのほか、戸外活動のさらなる充実を望む声も寄せられている。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	43	7	5	8
「はい」が78.2%、「どちらともいえない」が12.7%、「いいえ」が9.1%となっている。 自由意見は7件で、「仕事で遅くなった際も快く対応してくれ、仕事の都合にも大変よく配慮してくれるので助かっている」「たびたび残業で迎え時間を過ぎてしまっても、電話対応もよく、担任の先生も嫌な顔をせずいてくれてありがたい」などのほか、受付時の対応やお迎えの遅れ等に対する融通性について、さらなる配慮を望む声も見られる。				

4. 安全対策が十分取られていると思うか	44	16	2	1
「はい」が71.0%、「どちらともいえない」が25.8%、「いいえ」が3.2%となっている。 自由意見は12件で、「お友達との関わりの中がかまれたり等はあるが、先生も間に入ってくれているようで、成長とともに減っていくかなと思っている」のほか、設備や保育中の安全配慮、外部侵入や災害発生への対策などについて、気になる点や挙げられている。				
5. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	55	7	1	0
「はい」が87.3%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は5件で、「年間の行事予定を新年度に知らせてくれるので、予定を組みやすい」「4月に年間の行事予定がわかるのでよい」などのほか、行事の日程等における各家庭の参加の利便について、さらなる配慮を望む声も寄せられている。				
6. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	45	12	5	1
「はい」が72.6%、「どちらともいえない」が19.4%、「いいえ」が8.1%となっている。 自由意見は10件で、「子どものことをよく見てくれていて、園での生活を大変細かく教えてくれるのでこちらも相談しやすく、一緒に子どもを育てるパートナーのように信頼している」「先生の方から話しかけてくれる」などのほか、日頃の子どもの様子などの伝達やコミュニケーション機会の設定、職員の対応などについて、さらなる配慮を望む声が見られる				
7. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	46	13	3	1
「はい」が74.2%、「どちらともいえない」が21.0%、「いいえ」が4.8%となっている。 自由意見は8件で、「気になっていることなどを話すとき注意して見ていてくれ、経過も報告してくれるので話しやすい」「いつもにこやかで、とても話しやすい」「職員一人ひとりの姿勢はいつも素晴らしいと思う」のほか、職員の傾聴姿勢や日常のコミュニケーション機会の設定などについて、さらなる配慮を望む声も寄せられている。				
8. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	55	7	1	0
「はい」が87.3%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は8件で、「クラス内も園内もいつも掃除が行き届いていると思う」「園ができて新しいこともあり、季節ごとの飾りつけなどがされていて、子どもも喜んでる」などのほか、園内の清掃や衛生管理などについて、さらなる配慮を望む声も見られる。				
9. 職員の待遇・態度は適切か	41	20	2	0
「はい」が65.1%、「どちらともいえない」が31.7%、「いいえ」が3.2%となっている。 自由意見は11件で、「いつも優しい口調で声かけをしてくれている」のほか、職員の待遇や服装・身だしなみ等について、さらなる配慮を望む声も寄せられている。				
10. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	59	1	2	1
「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が1.6%、「いいえ」が3.2%となっている。 自由意見は9件で、「熱が出た際などは様子を見て預かってくれるので仕事に行くことができ助かり、すでに退勤している時間でも熱のある際は一報をくれるなど、信頼している」「子どもが病気やケガをした時の連絡も早く、子どもに適切な処置をしてくれている」「保健の先生がとてもよい」など、概ね肯定的な内容である。				

11. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	40	15	2	6
<p>「はい」が70.2%、「どちらともいえない」が26.3%、「いいえ」が3.5%となっている。 自由意見は6件で、「必ずどのようなことがあっても、仲直りをさせてから降園させるようにしてくれている」「まだ小さくトラブルも多い年齢だが、間に先生が入ってくれ、伝えることを学んでいる様子だ」「よく見てくれている」のほか、子ども間のいさかい等の把握や保護者への報告について、さらなる向上を望む声が寄せられている。</p>				
12. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	46	16	1	0
<p>「はい」が73.0%、「どちらともいえない」が25.4%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は5件で、「子どもの目線に立って、その子その子に合わせた対応をしてくれていると思う」「年齢に合わせてだとは思いますが、まだ小さいわが子のわがままにも付き合える部分は付き合ってくれているようで、子どもも満たされていると思う」のほか、子どもの気持ちを大切にされた対応や保護者への子どもの様子の伝達について、さらなる配慮を望む声も見られる。</p>				
13. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	46	11	0	6
<p>「はい」が80.7%、「どちらともいえない」が19.3%となっている。 自由意見は)プライバシー保護等へのさらなる配慮を望む内容が1件見られた。</p>				
14. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	46	14	1	2
<p>「はい」が75.4%、「どちらともいえない」が23.0%、「いいえ」が1.6%となっている。 自由意見は6件で、「毎日園での様子を教えてくれるので、毎日の生活が目に見え、いろいろな先生が子どもをよく見てくれ、先生方から話をしてもらっている」などのほか、子どもの様子や保育内容等に関する保護者への報告・伝達などについて、さらなる向上を望む声が寄せられている。</p>				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	39	10	2	12
<p>「はい」が76.5%、「どちらともいえない」が19.6%、「いいえ」が3.9%となっている。 自由意見は6件で、「伝えた後にきちんと直接話をしてくれたり、改善されているので、きちんと対応してくれていると思う」「行事の際のアンケートに感じたことを書くと、その後しっかりと対応してくれる」などのほか、不満・要望等への対応などについて、さらなる配慮を望む声も見られる。</p>				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	23	7	8	25
<p>「はい」が60.5%、「どちらともいえない」が18.4%、「いいえ」が21.1%となっている。 自由意見は外部の意見窓口の周知について、さらなる配慮を望む内容が1件見られた。</p>				

I 組織マネジメント項目 (カテゴリー1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
1	カテゴリー1	
	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
	9 / 9	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	
	評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	
○非該当		
●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	
○非該当		
●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)	
○非該当		
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	
○非該当		
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
○非該当		
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
○非該当		
カテゴリー1の講評		
法人及び園の目指すものをさまざまな媒体に掲載し、職員・保護者等に発信している 複数市内に保育所4施設を設置・運営する法人のミッションステートメント(使命の文章化)に、系列全園共通の理念・行動指針として「一人一人を大切に、生きる力を培う保育」と保護者・地域にとっての「安心できる子育て支援環境」の提供を掲げ、これを踏まえた保育の基本方針などとともに、ホームページや見学者・保護者及び職員向けの各種資料に記載している。また保護者には入園時や懇談会等での説明などによって浸透を図り、職員には入職時及び年度当初の会議、法人内合同の研修などでの確認のほか、各職員の名札の裏面にも記載している。		
経営層の職責を踏まえ、園に集う人々の笑顔を大切にマネジメントに努めている 経営層の職責及び権限が法人共通の「職務基準書」や「職員のしおり」等に示され、全職員への配付と日常の運営におけるその実践によって組織内での周知につなげている。園長はこれらを踏まえ、各種事務の統括や職員への指導、事業計画の推進や保護者・行政対応など、その職責の遂行に努めている。「みんなが笑顔でいられる園であること」「職員が楽しくやりがいを持って働くことができること」を大切に、職員にも保護者にも積極的なコミュニケーションから個々の状況の把握に努めるとともに、経営層としての考え方の発信と理解獲得にも注力している。		
園・法人の各単位で重要案件の検討・決定及び関係者への伝達の手順を定めている 園単位での重要案件の検討は毎月2回の職員会議のほか、案件や緊急性により朝礼・昼礼やリーダー会議などでも行われ、法人としての意思決定は理事会や系列各園の園長・主任による合同の会議で検討される。これらに出席しない職員には、重要性・緊急性に依り会議及び朝礼・昼礼、記録の確認や短時間職員が出席する「朝夕会議」、事務室の掲示板や園内グループウェアなどを通じて決定事項等を伝えている。保護者には書面の配付・掲示や緊急連絡用のメッセージボード設置、玄関のモニタのほか、必要に応じ懇談会や送迎時の会話でも伝えるようにしている。		

カテゴリ-2		
2 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(2-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ2(2-2)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ2の講評		
利用者の人権・尊厳の尊重など、職員としての倫理・規範の啓発をさまざまに行っている 「職員のしおり」に法人の職員として自覚すべき社会的責任や人権の尊重、説明責任・守秘義務などを端的に示すとともに、これを年度当初に確認して現場での実践を求めている。また「保育者の対応基準チェックシート」に子どもの尊厳・人権に配慮した接遇や服装、保護者への接し方について、具体的な禁止対応・用語を定め、これを毎年度当初に確認するほか、年2回程度の各職員の自己点検を課すなどして自戒と徹底を促している。利用者調査で子ども・保護者への接遇に意見が見られた点については、課題として職員へのさらなる指導に努める意向である。		
地域に対して情報提供と機能還元を積極的に行い、園の存在と活動を発信している 第三者評価受審・公表のほか、調布市の各種媒体や法人・園のホームページ、地域向け広報紙「らすく」を通じた情報提供、調布市の「保育フェスティバル」への出展など、情報発信と透明性確保に努めている。また親子での給食体験「キッズランチ」をほぼ毎月行うほか、園庭開放を平日午前中、園庭での在園児との交流機会「お外で遊ぼう会」を毎週木曜午前中に開催している。さらに各種相談対応と身体測定を提供する「すくすく広場」も毎月実施し、夏祭り・運動会・クリスマス会・餅つきなどの園行事も開放するなど、施設機能の還元も活発に行っている。		
ボランティア等の受け入れや地域の保育所・諸機関との連携と協働に取り組んでいる ボランティア受け入れに関する規程と機密保持等に関する誓約書を整備し、これらに基づいて地元の中学校からの職業体験生などを受け入れている。市内の民間保育所園長会で行政施策及び各園の情報の共有、研修会の企画開催などに加わるほか、年2回の公私立園長会にも参画している。また園長が地域の児童館の運営委員会や合同の防災訓練後に開かれる地元の小学校区内の地区防災対策委員会に出席したり、幼稚園・小学校との連携懇談会に園長・年長児の担任が参加するなど、地域の諸機関との連携もなされている。		

カテゴリ-3	
3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
サブカテゴリ-1(3-1)	
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	8/8
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
カテゴリ-3の講評	
保護者からの個別の意見・要望等の把握に努め、対応や解決にあたっている 玄関に意見箱を設置するほか、第三者委員を含む苦情解決制度を整備し、入園時の説明資料「園のしおり」への記載とともに保護者に説明するほか、園内に掲示し、ホームページにも制度の概要や意見申出書の様式を掲載している。第三者委員の連絡先の明示については、制度としての機能を踏まえうえて、望ましいあり方を検討している。日常の対話の機会に把握された声も含め、これら保護者の意見・要望等は経営層や職員間での共有のもとで対応・解決にあたり、駐輪場の利用に関する保護者への啓発など、寄せられた意向に配慮した改善にも努めている。	
保護者全体の意向を把握する取組がさまざまに行われ、改善にも活かされている 第三者評価時の利用者調査は結果を経営層で検討し、保護者・職員には概要を伝えるほか、寄せられた意見に対する回答を書面にまとめ、保護者に配付している。また保育参加及び夏祭り・運動会・発表会などの保護者参加行事ではアンケートを実施し、意見を集約して次年度への申し送り書類に記載し、次回の企画に引き継いでおり、発表会での観覧方法をはじめ、昨年度を踏まえた改善の事例も見られる。これらのアンケートに関しては、結果の保護者へのフィードバックやより効果的な要望把握を考慮した質問・帳票の工夫などについても検討されたい。	
地域の子育てニーズや保育・福祉の制度・政策等を随時把握し、運営の参考としている 「キッズランチ」では参加者の感想や要望などを書面で募り、企画の参考としており、その他の地域支援行事も身近な子育てニーズの収集の機会として活用することが期待される。前述の市内の園長会や同会主催の研修、地域内の各種委員会等を通じ、市内及び地域内の福祉・保育ニーズや住民の声、保育・福祉の制度・政策などの情報を把握するほか、関係団体からの随時の発信も情報収集に活用している。各種情報は今年度の法人による産業医制度導入などに活かされるほか、必要に応じ随時園内に通知されている。	

カテゴリ4		
4	計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年度単位の計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ2(4-2)		
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>保育や組織運営、地域支援などの各分野に関する中・長期計画を作成し、実行している 28年度までの中・長期計画を策定しており、子どもの成長・発達の支援、地域貢献や危機管理など6分野で、重点課題と取組内容、担当及び進捗指標を示し、法人共通の仕組みであるプロジェクトチーム制を活かし、活動と進捗報告を随時行うこととしている。より着実な実行と成果獲得の観点では、各チームの活動や進捗予定のさらなる具体化や、計画全体の進捗を定期的に測る機会の設定なども有効かと思われる。また運営に関する毎年度の共通事項を中心とした年間事業計画も別途策定され、中・長期計画との関連性をより深めることを課題としている。</p> <p>短期の諸活動の計画的な実行や法人内外の各種事例の参照・活用にも取り組んでいる 各行事や防災・防犯訓練など短期の活動では、実施のつど計画案が作成され、担当者・チームにおいて準備を進め、実施後の反省と保護者の意見を次回・次年度に引き継ぐ流れとしている。また必ず前年度の担当者をチームに含め、前年度からの継続性を確保するほか、準備の進捗は必要に応じカレンダーを作成するなどして着実な実行と成功につなげている。市の園長会などで得られる周辺の他園の事例、法人内の系列園の取組や各メディアからの保育・教育関連の情報なども随時参考とし、園運営や改善、職員への啓発に活用している。</p> <p>ケガ等の記録・分析や防災・防犯対応の各種訓練など、安全の確保・向上にも努めている 現場の危険事例は受診治療の有無を基準に所定の各様式に記録し、事案により「SHELL分析」によるソフト・ハード・人的要因など五つの観点での原因分析を行っている。発生後の報告・共有は朝礼・昼礼や会議、グループウェアを通じて行い、今年度はヒヤリハット事例の記録・集約の徹底を図る改善にも取り組んでいる。毎月の避難訓練では夕方や園長不在時の発生など、ケース想定のも多様性にも配慮するほか、保護者との子どもの引渡しや通信システム稼働の確認も実施している。不審者対策訓練やBCP(事業継続計画)策定・見直しにも取り組んでいる。</p>		

カテゴリ-5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる			
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる		○非該当
カテゴリ-5の講評			
<p>職員への人事考課や目標管理の制度を整備し、各人の能力と意欲の向上を図っている</p> <p>職員の募集・採用は法人本部のほか、各園の状況に応じ機動的に行い、園内の配置は本人の意向・適性などを踏まえ経営層が決定している。経験や職位・職種ごとに求める能力・資質を法人共通の「職務基準書」に定め、これに基づく人事考課を行って各人の貢献や成長を確認するほか、一部処遇にも反映することで意欲の向上にもつなげる仕組みが設けられている。また別途「自己申告書」を用いた個別の目標管理と意向把握を行い、今年度は同様式を一部改定して自己啓発・研修などによる成長の希望・目標をより具体的に把握できるようにしている。</p> <p>リズム遊びの研鑽をはじめ、職員が知見を深め、資質を高める機会を多様に設けている</p> <p>外部の研修への参加は上記「自己申告書」による個人別の目標設定も踏まえ実施し、復命後の成果共有は報告書・資料の回覧のほか、内容により会議での報告や園内研修での展開も行っている。園内研修ではリズム遊びに関する専門性を高める取組を年間を通じて行い、年齢・発達ごとの近年の子どもの発達傾向やリズム遊びに関する見識を深めている。また「次世代」チームの活動として短時間職員との連携強化にも取り組み、話し合いの場の充実や保育目標など認識の共有を図ることで、要配慮児を含む子どもへの援助の向上につなげている。</p> <p>働く場としての環境整備にも努め、各職員のやる気と働きがいの向上を図っている</p> <p>経営層が職員の勤怠・休暇取得状況の管理や上記「自己申告書」の取組を含む意向の把握を行い、必要な対応に努めるとともに、福利厚生組織への加入や各種費用の負担・補助などを行い、休暇制度・退職金制度なども整備されている。また園内の就労環境整備を行う「職員」チームが各種懇親イベントの企画・実施などを行うほか、上記のリズム遊びに関する園内研修では、職員の経験や学びを活かし、資料やカリキュラムの検討を含め担当者が中心となって進めるなど、個々の職員の専門性や特性、提案の積極的な活用もやる気向上の一助としている。</p>			

カテゴリ-7		
7	情報の保護・共有	
サブカテゴリ-1(7-1)		
情報の保護・共有に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-7の講評		
<p>ソフト・ハード両面の各種取組により、情報の活用促進と管理徹底の両立を図っている</p> <p>各PCには使用者や管理する情報に応じパスワードを設定して部外者のアクセスを排除するほか、園内グループウェアが運用され、会議等の記録や各種事務連絡を含め、保育・事務両面での効率的な情報共有に活かされている。ネットワーク内でも職位等に応じデータの分離やパスワードの設定がなされ、情報の適正な利用が図られている。また各種書類及びデジタルデータ等は事務室内の施錠可能な書庫に保管するとともに、事務室への入室も電子式のセキュリティ錠による制限を設定するなど、設備の面でも情報の保護・管理の徹底が図られている。</p> <p>子どもの肖像の利用等に関し、保護者との相互理解を図っている</p> <p>個人情報の利用目的、取り扱いや開示の際の基本姿勢などは法人の個人情報保護規程及び同方針、「情報公開・開示規程」などに示されている。保護者には子どもの肖像の利用に関する事項を「園のしおり」に記載のうえ、入園時に説明するほか、ホームページ上のプライバシーポリシーには子どもへの保育・教育及び園児管理、必要時の保護者への連絡などを利用目的として示している。保護者が行事等で私的に撮影した画像・映像等の取り扱いについても「園のしおり」に記載して配慮を求め、保護者への自己情報の開示については、最善の方法を模索している。</p> <p>職員等に個人情報保護の徹底を促すための啓発を行っている</p> <p>職員に対しては、入職時の教育や年度当初の「職員のしおり」の確認などを通じて守秘義務の遵守や個人情報保護の徹底を促しており、入職にあたり、短時間を含む全職員から誓約書を取得している。昨今の社会や業界の趨勢を踏まえ、各種SNSにおける機密漏洩の禁止についても経営層からの指導に努めているが、今後それらを含め情報の利用・管理における具体的な禁止・遵守事項を文書化し、周知徹底を図ることも有効かと思われる。ボランティア等には受け入れ時のオリエンテーションと誓約書取得によって守秘義務の徹底を促している。</p>		

カテゴリ－8	
8	カテゴリ－1～7に関する活動成果
サブカテゴリ－1(8-1)	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
<p>評価項目1</p> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ－で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ－1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ－2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ－4:「計画の策定と着実な実行」 	
<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない	
<p>改善の成果</p> <p>ヒヤリハット事例の確実な収集、職員への理念・規範等の再周知などに取り組んでいる</p> <p>園内の安全向上の一環として、いわゆるヒヤリハット事例について、今年度から各クラスでの収集・記録を共有サーバに上げ、事例の把握後に組織全体での確認を速やかに行えるようにするとともに、現場からの報告を看護師が随時集約することで、今後の集計・分析にも活かされるようにしている。</p> <p>また法人において、就労環境向上の一環として設けた産業医との各職員の面談・ストレスチェック制度を通じ、法人の求める行動・認識等に関する理解の共有の必要性が改めて把握されたことから、27年11月に法人理事長名で「法人職員としての自覚」及び保育基本方針、就業規則の抜粋の確認を各園に通達し、目指す保育のあり方や職員としての倫理・規範等の再確認を促している。</p> <p>また入職3年目までの常勤職員には「新人OJTチェックリスト」によって挨拶・身だしなみから言葉遣い・清掃までの社会人マナー、各種日常業務や保健・安全など、保育者としての業務の基礎的事項を年間を通じて学ぶ機会が設けられ、資質向上が図られている。</p>	
サブカテゴリ－2(8-2)	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
<p>評価項目1</p> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ－で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ－5:「職員と組織の能力向上」 	
<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない	
<p>改善の成果</p> <p>組織としての学びの活用・共有に取り組む、就労環境の向上にも努めている</p> <p>職員会議内で年間を通じ「保育の質UP!!」と題した園内研修を行っており、職員の経験と知見を活かし、リズム遊びに関する専門性や近年の子どもの身体発達の傾向などを学ぶとともに、担当者本人の研鑽ややりがいの向上にも活かしている。また「次世代」チームを中心に、現場からの要望も踏まえて短時間職員との連携強化にも取り組み、短時間職員との話し合いの場を充実させ、保育目標など認識の共有にも結びつけるとともに、配慮が必要な子どもの個別支援をより細やかに、また確実に行ううえで、必要な情報をよりスムーズに共有できる効果にもつなげている。かねて行う幼児向けの「危険学」と題した安全配慮の啓発にも職員の外部研修での学びが活かされるなど、職員の研鑽と知見の活用や共有がなされている。</p> <p>さらに処遇面で、国や都の制度改正を踏まえた賃金面の改善として、常勤職員・短時間職員ともベースアップ・時給引き上げを行うほか、例年行うシャツ制作に際し、初の試みとして職員からデザイン案を募集し、採用者には商品を設けたり、忘年会も内容・会場などの充実を図るなど、福利厚生面の充実にも取り組んでいる。</p>	
サブカテゴリ－3(8-3)	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
<p>評価項目1</p> <p>前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリ－で評価される部分について、改善を行い成果が上がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリ－6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ－7:「情報の保護・共有」 	
<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない	
<p>改善の成果</p> <p>職員や保護者の視点などを活用し、保育のソフト・ハード両面で充実を図っている</p> <p>情報管理面では、年度開始時などに各種文書の整理と移動・廃棄を行い、管理状況の更新と利用・検索の利便性維持を図っている。</p> <p>保育の分野では、前述のリズム遊びに関する園内研修、短時間職員との連携強化などとともに、各年齢の子どもの発達やクラスの活動の推移を踏まえ、保育室内の環境を随時見直したり、昨年度の利用者調査で寄せられた意見を踏まえ、玄関のタイル部分に滑り止め加工の処理を施し、安全向上につなげるなどの改善を行っている。また行事でも前年度のアンケート結果などをともに、発表会では優先席の利用方法を改め、職員が誘導して演目ごとに保護者が入れ替わるようにして好評を得たほか、運動会では開催前に並んで待つ保護者が会場内で待てるようにし、安全向上と近隣対策の向上を図るなど、保護者の意向の反映にも取り組んでいる。</p>	

サブカテゴリ4(8-4)	
事業所の財政等において向上している	
評価項目1 財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果 さまざまな取組により、適正な財務運営と収支バランス最適化が図られている 太陽光発電の活用や裏紙使用の徹底・クレヨン等の再利用、備品等の在庫管理の徹底など、省資源・省エネ化を推進するとともに、財務運営について、業務委託する会計事務所に月次の巡回をはじめ適宜の助言・支援を受けるなど、適正な管理のための体制が整えられている。 直近年度の決算では積立金も確保され、初年度の支出超過も解消されるなど、財務バランスの最適化が図られている。	
サブカテゴリ5(8-5)	
前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	
評価項目1 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している ・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果 個別・全体の各見地から保護者の意向を把握し、対応と改善への反映を行っている 送迎時や個人面談等の直接対話の機会や意見箱・苦情解決制度など、保護者の個別の意向・要望等を収集する仕組みを整えるとともに、第三者評価受審時の利用者調査、行事後のアンケートや保護者会など、全体の意向把握の機会もさまざまに設け、寄せられた声の運営や改善への反映にも努めている。 前掲サブカテゴリ3で既述の各種改善のほか、保護者から寄せられた園の駐輪場の利用に関する意見を踏まえ、掲示や個別の伝達によって保護者にマナーの徹底について再度啓発を行う取組も実施するなど、保護者それぞれの多様な価値観にも配慮しつつ、案件ごとの最善の対応に努めている。	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1		評点(〇〇〇〇)	
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー1の講評			
<p>さまざまな媒体を用いて、園の一般的な情報を積極的に公開している</p> <p>見学者にはA4二つ折りのカラー印刷のパンフレットを配布しており、写真を活用した園舎のコンセプトの説明やミッションステートメント(使命の文章化)、アクセスマップなどが示されている。園のホームページ(HP)では日々の園の活動や年間の行事なども詳しく知ることができるよう工夫が凝らされ、入園決定者向けの情報全般を網羅した説明資料「園のしおり」もダウンロードができるようになっている。なお、希望者には「園のしおり」、園便り「しぜんとなかよし」や地域向け広報紙「らすく」も渡すなど、さまざまな情報公開が行われている。</p> <p>周辺資源を活かした情報提供が行われている</p> <p>調布市の子育て支援案内冊子などの各種媒体で園の基本情報を伝えるほか、調布市の「保育フェスティバル」への出展を通じて園の保育の特色や子ども達の姿の一端がわかるようにしている。地域向けの広報紙「らすく」を市役所や近隣の児童館に常置したり、地域支援利用者に手渡すなど、地域資源を活用しながら、園の取組を幅広く周知が図れるようにしている。その他にも定期的に第三者評価を受審し、結果を「とうきょう福祉ナビゲーション」で公開するほか、園情報の発信として、近隣の小学校・公民館には園便りの提供もしている。</p> <p>見学時には丁寧な説明を心がけ、園の特色等を伝えている</p> <p>見学は子どもの様子や園の保育活動が見やすい平日午前を基本に、希望者の都合に応じて受け付けている。またグループでの見学も勧め、地域の子育て世帯の交流の一助としている。当日は園長・主任等が対応し、園内を回りながら、園庭・ランチルーム・屋上環境などの園の設備や保育の特色などを伝えるほか、保護者の利用希望等も含めて話を聞きながら、知りたい情報に対する説明が丁寧にできるように心がけている。さらに一時保育や子育て支援事業の案内のほか、子育てに関する助言や子育ての参考となるような話題も伝えている。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>プレゼンテーション形式で、入園にあたっての詳細な説明が行われている</p> <p>入園決定者には事前に「園のしおり」等を配付し、利用開始にあたっての説明会を実施している。当日はプレゼンテーション形式で、ミッションステートメント(使命の文章化)や保育方針・保育目標のほか、一日の流れや保育に関するお願いごと、園生活や家庭における健康管理、感染症やSIDSの家庭での配慮など、園長・主任・看護師がそれぞれの専門分野ごとに詳細な説明をしている。説明後の質疑応答を行うほか、別日に個別の面談を行い、再度不明点などの確認を行うことで丁寧な説明を心がけるとともに、重要事項の同意としている。</p> <p>面談において子どもの成育歴や発達状況などを把握し、その後の支援に役立てている</p> <p>説明会后に別途日程を調整して個別の面談を行っている。保護者が記入・提出する児童票・「新入園児生活状況調査票」などをもとに担任予定者が面談し、子どもの家庭での成育歴や発達状況などを把握するとともに、アレルギーや既往症等において配慮が必要な場合は、専門職も同席して詳細な確認と園での配慮事項等を確認している。これら把握した情報は「新入園児面接記録」に記録し、各会議で報告するとともに、議事録にて非常勤も含めて共有することで情報共有の徹底と入園後の子どもへの配慮に役立てている。</p> <p>入園当初の親子の不安解消と園との信頼関係の構築に配慮している</p> <p>入園当初には保護者の就労状況や子どもの状況等を事前に相談したうえで、「慣れ保育」として短時間から徐々に長時間に移行して子どもが無理なく園生活になじめるようにしている。入園前に好きな遊びや生活リズム等を把握し、それに沿って安心して過ごせるよう、保育士との愛着関係の確立に努めている。また乳児は初めて園に預けることもあるため、希望者は午前の活動に参加することができ、子どもと一緒に過ごしてもらったり、離乳食の状況を確認してもらったりなど親子の不安解消と園との信頼関係構築の一助としている。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
3 個別状況に応じた計画策定・記録			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	<input type="radio"/> 非該当	

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3の講評		
<p> 入園時及び入園後の子どもの成長発達を適時に記録し、発達援助に活かしている 入園時には入園説明会を行ったうえで個別面談を実施し、把握した個別の状況は職員会議で共有化している。入園後は全園児対象に発達経過記録を定期的に記載するとともに、一人ひとりの成長発達の推移を記述している。また2歳児までは個別の月案を立て、3歳以上児にも配慮を要する子について立案している。子どもの情報については月2回の全体職員会議及び毎月の幼児・乳児の各会議で共有を図り、一人ひとりの発達援助につなげている。また園児管理ソフトウェアを活用し、子どもの健康面や日々の活動なども連動して情報を共有できる仕組みとしている。 </p> <p> 各期間の指導計画を作成し、保育へと展開して子どもの成長を支える活動を実施している 保育課程のもとで年間・月間指導計画及び週日案を作成し、日々の状況を保育日誌に記録している。0・1歳児については毎日の個別の状況も日誌に記載するほか、2歳以上児もクラスの活動や特記すべき子どもの様子を日誌に記載するなど、個々の子どもに応じてきめ細やかに配慮している。保育課程の活用や各計画の整合性、及び計画の立て方については、さらなる向上の余地も見られており、今後は保育実践により活用できる計画及び記録として位置づけ、さらに質の高い保育の実践につなげることが期待される。 </p> <p> 保護者と園との連携を図り、保育や子どもの発達への理解獲得や情報の共有に努めている 入園前の説明会で「園のしおり」やプレゼンテーションを活用して園の保育や食事・保健の取組等について具体的に説明を行うとともに、年度当初の懇談会でも各クラスの年間の目標や行事について伝え、年度末には一年の取組の振り返りを行うなど、保護者との共通理解形成を図っている。また希望する世帯には保育参加と個人面談を行い、子どもの状況や成長発達について家庭との情報や認識の共有を図っている。これらを含め、各種情報は職員会議や園内グループウェア、日々の朝礼・昼礼等で組織内に展開し、個々に即した発達援助の提供につなげている。 </p>		

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>羞恥心への配慮や法人のルールに基づいた情報の取り扱いなどに努めている 子どもに関する情報を外部とやり取りする場合には、「園のしおり」等に記載の法人のプライバシーポリシーに則って対応している。また新入園世帯には入園説明会時に口頭にて園長より説明をしている。また子どもの羞恥心やプライバシーを考慮し、おむつ交換は部屋の中で行うようにするとともに、職員には子どもの尊厳やプライバシー、性差に配慮した援助を徹底するよう入職時に伝えている。夏場のプール活動は屋上園庭に設置するプールを使用し、外部からの視線を遮断するとともに、0歳児についても室内で着替えを行うなどの配慮をしている。</p> <p>子ども一人ひとりを尊重した保育実践に向けて複数の振り返りの機会を設けている 子どもや保護者の個別事情等を把握し、可能な範囲で個別の計画等へと反映して一人ひとりへの配慮に努めている。子どもの呼び方や叱り方を含む日常の言動、着脱時等の配慮など、子どもへの接し方については非常勤を含む全職員が年2回、「保育士の対応基準チェックシート」をもとに振り返りを行うほか、新人職員には日常の中で気になることがあれば主任からの指導が行われている。また職員の自己評価票をもとに園長や主任による面談を行っており、これまでの職員自身の日々の保育の在り方等を改めて振り返れるようにもしている。</p> <p>虐待の早期発見や予防に向けて取り組み、発生時の対応にも備えている マニュアルには虐待の定義や発生要因、早期発見のポイント、相談・通告の流れなどをまとめ、職員会議の中で人権の尊重や虐待の知見を高めることにも取り組んでいる。また複数担任によるクラス体制を活かし、上位者が見本となり望ましい言動をOJT形式で指導しながら、園全体でこれらの視点が日常の中で持てるようにしている。なお、虐待の疑いや事例が発見された時には複数の職員でチェック項目に基づいた確認をし、ケースに応じて児童相談所や子ども家庭支援センターとの連携を図る仕組みとなっており、通報の連絡先は事務所に掲示している。</p>			

サブカテゴリ6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
6	事業所業務の標準化	11/11
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ6の講評		
<p>職員としての規範や実践手順の全般等をマニュアル化し、周知を図っている</p> <p>園の理念・方針・目標と役割分担表、職種・職位ごとの業務における基本心得と必要な研鑽を示す「職務基準書」のほか、保育実践や保健衛生・安全管理、接遇の各種マナーなど当園職員として求められる考え方や実践手順の全般が網羅されているマニュアルを事務室内に常置し、職員がいつでも確認可能としている。また「職務基準書」を常勤職員に配付するほか、毎年更新されている「職員のしおり」は年度当初に全職員へ配付し、法人職員としての自覚や行動指針、事業計画や中長期計画、役割分担などを会議で読み合わせている。</p> <p>職員や保護者の気づきや提案を活かしながら、見直しや改善に取り組んでいる</p> <p>保育や運営、行事などの手順や基本事項等は、職員の提案や保護者からの意見などを踏まえて職員会議で検討し、見直しを図る仕組みとなっており、会議の内容は全職員がアクセス可能なグループウェアに入力し、情報共有の徹底を図っている。「公園お散歩MAP」においては日々変化があるとの認識から、子どもチームを中心として随時見直しをかけており、各クラスでの提案や気づきを募って改訂内容に反映したり、日常の公園での安全配慮に即時的に役立てられるようにしている。</p> <p>園内研修や会議等で職員の知見共有や研鑽が行われている</p> <p>安全な保育提供に向け、年齢に応じた事故防止チェックリストを活用したり、毎月の職員会議で危険事例等を収集し、再発防止の検討から職員の意識向上を図っている。園内研修においては短時間職員に対して理念・保育目標等の周知徹底を図るほか、法人研修では外部講師を招き、チームで協力する大切さを再確認している。外部研修への参加も積極的に進め、研修後の学びについては報告によって技術や知識の共有にあたっている。また日常的なOJTの仕組みを活かして職員間の助言・指導がなされ、会議等の中でも園長・主任からの助言・指導が行われている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 37/37
<p>1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけができるよう、環境構成を工夫している
○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している
○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
○非該当	
評価項目1の講評	
<p>子どもの主体性や社会性を育むために、さまざまな取組と工夫を行っている</p> <p>各室内では発達に応じて環境に工夫を施しており、3歳以上児についてはままごとコーナーや絵本・積み木・ブロック・パズルなど、自由時間の際には自分で選んで積極的に活動ができるようにしている。また子どもたちの主体性と社会性・責任感を育む活動として、3歳以上児を対象に当番活動を実施し、配膳の手伝いや朝夕の会の司会を行う中で、役割を果たしながら心の成長を得られるようにしている。異年齢で過ごす場もさまざまに設け、年上の子を見習ったり、年下の子のお世話をするなどの関わりを通じ、成長への憧れや年上の自覚が培われている。</p> <p>個々の子どもの成長を育むとともに、お互いに尊重できる環境を整えている</p> <p>配慮を要する子については個別月案を立て保育を實踐し、必要に応じ担当職員が主任・園長とともに話し合いを行い、個々の特性や発達状況に即した援助に努めている。必要に応じ外部機関の支援を得る場合は保護者と連携を図り、子どもの状況や必要な援助について情報を共有するようにしている。また年長児の国旗遊びや日本の伝承遊びを通して多様な文化に触れるほか、一人ひとりの子どもには1歳児より家庭で人形を作ってもらい、園生活における情緒の安定に活かすとともに、ものに愛着を持ち、大切にすることを身につけている。</p> <p>子どものトラブルには適時職員が対応し、それぞれの心の育みにつなげている</p> <p>子どもの同士のトラブルがあった場合には、自分たちで解決できるように職員が仲立ちをしながら、年齢に応じた対応を心がけるとともに、職員は子どもの成長を見守る姿勢を持って接している。保護者にもケースによって担任から説明し、相互理解を図るとともに、延長保育の時間にも在園している子どもの家庭には担任からの直接の伝達に代え、連絡帳への記載によって同様に状況や発生・対応の経緯をつまびらかに報告するようにしている。乳児のかみつきについては朝礼・昼礼で職員へ伝達をし、園全体で配慮できるよう心がけている。</p>	

2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>家庭と連携を図り、日々の保育の様子を適時伝えられるように工夫している</p> <p>保護者からの伝達については、早朝保育の担当職員は各クラスのボードを活用して担任に伝える仕組みを設けている。またこれらの情報やその日の子どもの様子などは朝礼・昼礼等で職員に伝達し、お迎えの際に保護者に伝えられるようにしている。併せて連絡帳も活用し、2歳児までは毎日、3歳以上児については随時記載して、園と家庭で子どもの生活を共有できるようにするほか、玄関モニターやホームページ上でもその日の活動内容も知らせ、各部屋には子どもたちの作品を飾るなど、保護者に日々の子どもの活動を伝えるためのさまざまな工夫を行っている。</p> <p>一人ひとりに基本的な生活習慣の自立を促すためのさまざまな取組を行っている</p> <p>0・1・2歳児の部屋は二つのユニット形式となっており、子どもの成長発達を考慮して各室の使用を時期に応じ柔軟に変更するほか、基本的な生活習慣の自立に向けて活動・食事・睡眠がスムーズに促せるよう、動線やエリアの設定を工夫している。また0歳児より歯磨き指導を実施、0歳児は職員が援助し、1歳以上児より自分で行えるよう徐々に習慣づけるとともに、仕上げ磨きを職員が行うようにしている。乳児のクラス便りでは発達に応じ行うこれらの取組を保護者に伝え、日々の送迎時などの情報交換とともに、家庭とも連携した自立支援を図っている。</p> <p>睡眠時においては個々の子どもの状況を配慮しながら安全に過ごせるよう工夫をしている</p> <p>睡眠は基本的に全園児対象に実施し、室内を季節や安全にも配慮した明るさにして安眠にいきなうほか、子どもへの意識づけとして身体を休める時間として横になるように促し、早く起きた子については静かに別室にて遊ばせるようにしている。また年長児は就学に向け、2月より睡眠をなくし、保育活動の充実を図っていく計画としている。睡眠の際にはSIDS予防として睡眠チェック表を活用した呼吸・体勢などの確認を全クラスで実施するとともに、0歳児については満1歳の誕生日を迎えるまで呼吸感知器を使用し、確実な状態把握と発生予防に努めている。</p>		

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3の講評

子どもの成長を育めるようさまざまな環境を整え、想像力や生きる力を育んでいる

食育活動の一環として一昨年より畑を活用し栽培活動を行うほか、1階エントランスでは生き物を身近に感じ、育てる環境を設けるなど、命の尊さを知り、生きる力を育む取組の一つとしている。また自由活動の際には、各部屋にあるパズルや折り紙、積み木など子どもが自由に遊べる時間を保障するほか、活動の合間に絵本コーナーを活用したり、玄関ホールでは壁面にあるさまざまな形のマグネットを用いて子どもの発想でデザインできるようにするなど、さまざまな設備・空間の工夫も交えて子どもの自主性や想像力の伸長と発揮を支援している。

専門講師による体育指導や造形教室での取組が、子どもの心と身体を豊かに育んでいる

3歳以上児を対象として提供する体育指導や4・5歳児向けの造形教室では外部講師が来園し、体育指導ではマット・鉄棒・ボール・跳び箱・縄跳び等多岐にわたる活動を発達に応じ行い、運動会でのパラバルーンや組体操を通じた発表にもつなげている。造形教室では絵の具やはさみによる制作のほか、園庭で土粘土作りから経験し、全身で土の感触を楽しみながら作品を完成させるなど、子どもの感性を育む活動を積極的に行っている。制作活動で創りあげた子どもたちの作品は各クラスや廊下などさまざまな場所に展示され、園内を彩っている。

戸外活動を積極的に行い、子どもの身体づくりや自然体験の機会の保障につなげている

天気の良い日には各クラスで戸外活動を行い、午後にも幼児クラスでは戸外に向くなど、積極的に屋外での活動を採り入れて季節や自然に親しむ機会を設けており、近隣の公園などで採集した自然物を制作に活かす活動も行っている。また園庭では固定遊具で遊んだり、2か所の砂場で乳児と幼児に分かれ、安全に遊ぶこともできるようになっており、年長児はドッジボールを行うなど、集団で活動する楽しさも年齢に応じて経験している。屋上の園庭でも三輪車などで遊ぶことができるなど、環境・活動ともさまざまな配慮がなされている。

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>運動会では子どもの成長発達を促すとともに、さらなる内容の充実を目指している 運動会では、子どもの運動発達を保護者と職員とともに確認し合う場としてさまざまなプログラムを実施、3歳以上児は体育指導での成果を発表し、各々の発達に応じて跳び箱・鉄棒・マット運動の披露などを行っている。また3歳未満児は親子で楽しむ・幼児は友達と協力して取り組むことを目標とし、それぞれの競技や演目を設けており、年長児が活動の集大成として組体操に挑戦したり、4歳児はパラバルーンに取り組むなど、力を合わせてやり遂げる達成感につなげている。今後は発表内容について保護者の意見も採り入れ、さらに充実を図る意向である。</p> <p>園内外での活動において、集団保育におけるさまざまな取組を実施している 発表会では子どもたちが日常保育で楽しむ絵本から題材を選び、配役やせりふも子どもの主体性を尊重し、仲間同士で力を合わせて当日の発表に結びつけ、みんなで協力して創りあげる喜びを感じている。また3歳以上児は近隣の畑で芋掘りや大根掘りを行い、収穫した野菜は家庭に持ち帰ったり、スイートポテト作りや豚汁作りなどのクッキング活動につなげている。幼児クラスの秋の遠足や3月の年長児の「お別れ遠足」と2～4歳児の「なかよしピクニック」などの体験もさまざまな思い出と成長をつむいでいる。</p> <p>系列園との交流や園外の人々とのふれ合いが、心の成長の糧となっている 園独自の取組として、年長児は法人内の系列園との交流を実施、手紙のやり取りやお互いの園訪問を行い活動をともにすることで、子ども同士のふれ合いが持たれている。また地域との交流として園外での芋掘りのほか、クリスマス会や餅つきなどの園行事は地域の親子との出会いと交歓の機会となっている。地域子育て支援の「お外で遊ぼう会」でも一緒に園庭で遊んだり、パネルシアターを楽しむなどして地域の親子とともに過ごしているほか、近隣の中学校からの職場体験生とも関わりを持つなど、さまざまな交流が子どもたちの心の成長の糧となっている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>同年齢・異年齢それぞれの活動が子どもたちの遊びを助け、自立を後押ししている</p> <p>合同保育の時間帯では子どもの人数や状況によって、それぞれの活動に差が出ないように配慮し、部屋の使用を決めている。合同保育で過ごす際には、日常の保育とは違う遊びを提供し、子どもたちが楽しく過ごせるよう工夫するほか、異年齢での活動も積極的に採り入れている。幼児が乳児クラスに出かけて早寝早起きの習慣の大切さをダンス等を通して伝えたり、天候や日中の各クラスの活動に応じて室内での遊びや散歩をともにするなど、日々の保育の中で交流する機会を設け、年齢の異なる子どもとのふれ合いを通じた心身の成長を促している。</p> <p>子どもの状況に応じ環境構成に変化を持たせ、保育活動がより充実するよう配慮している</p> <p>2階の3歳児までの部屋は各々二つの空間に分けられ、各クラスともそれぞれの部屋の形状を活かし、年度当初は新入園児と在園児を分けたり、月齢に配慮したグループを構成するなどし、また活動の内容によって静と動の活動を分け保育を実践するなど、子どもの発達や状況に応じて部屋を使い分け、長時間を過ごす場としてさまざまな工夫をしている。また1歳児室ではパーティションを活用し、広いスペースとしても使用したり、4・5歳児についても雨の日に身体を動かす部屋として使用できるなど、子どもの状況に応じた柔軟な環境設定が可能となっている。</p> <p>子どもの様子について職員間で連携を図りながら、保護者への伝達に努めている</p> <p>子どもの一日の保育活動の様子については、昼礼時に各クラスの様子を共有するとともに、短時間職員を含むクラス担任以外の保育者も園内グループウェア上で情報を把握できるようにし、送迎時の保護者への確実な伝達につなげている。日中の子どもの様子は、3歳未満児は連絡帳に毎日記載し、3歳以上児も必要に応じて活用しているほか、週1回以上は担任が保護者に直接会えるようにシフト等を工夫している。また延長保育の職員への引き継ぎには各クラスで連絡用のボードを活用するなど、申し送りや情報共有にさまざまな仕組みを設けている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>食事の充実や食を通じた子どもたちのさまざまな体験の機会の提供に取り組んでいる 献立は2週サイクルとし、旬の食材を採り入れた薄味で提供している。子どもの食べ具合やメニューについてなど、毎月の食育会議で現場の報告や要望を調理担当が把握し、次の調理の充実へとつなげている。4・5歳児はランチルームを活用し、自分たちで配膳を行う機会を設けており、幼児の当番活動の一環として前に出て開始時に挨拶をしたり、年長児がアナウンス当番としてメニューの内容を放送する活動も設けている。また地域交流の給食体験「キッズランチ」では当番が配膳を手伝うなど、食を通してさまざまな体験機会を提供している。</p> <p>子どもたちに楽しい食事やさまざまな食育活動を提供し、食への意欲を高めている 行事食として、季節の行事に応じたメニューを提供しているほか、誕生会では人気メニューを採り入れたり、年長児のお別れ会では子どもたちが好きなメニューをリクエストするなど、食事を楽しくする工夫をしている。食育活動として職員が「食育忍者」に変装し、食材の三原色の紹介や早寝早起きの大切さを伝えて生活リズムへの意識を高める取組などを行ったり、玄関に食材の分類を展示して保護者にも関心を持ってもらうようにしている。活動は「子ども」チームに属する職員が主体となって実践し、子どもたちの食への興味や意欲が高まるようにしている。</p> <p>栽培から調理までの活動の実施やアレルギー食提供の配慮などにも取り組んでいる 3歳以上児を中心に夏野菜や冬野菜など季節に応じた野菜を栽培し、収穫した野菜は給食の材料として提供したり、クッキング保育につなげるなど、育てるから食べるまでの一連の作業の中で、子どもたちが食や命の営みの尊さへの関心を深められるようにしている。食物アレルギーを持つ子には医師の診断のもとで代替食を提供、所定の様式に記載し年1回情報を更新する仕組みとしている。提供の際にはトレーと皿やテーブルを別にし、献立内容を調理担当と担任が確認するとともに、配膳の際にも再度担任同士で確かめるなど、事故防止にも配慮している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○非該当

評価項目7の講評

視覚も活用して子どもが身の回りの危険を回避できるような意識付けを行っている

日常的に手洗いうがい・歯磨きなどを年齢に応じて取り組むほか、毎月の避難訓練や歯科衛生士による年2回の歯磨き指導も行っている。園庭の各遊具や砂場などでの注意点、各公園における危険箇所や特色を写真とコメントでまとめ、ラミネートカード式の綴りとして各室に設置し、日常の指導に活用している。また身の回りの周辺環境に潜む危険箇所等を子どもが視覚的に感じられるような工夫を凝らし、年間を通じて「危険学」を応用した取組が行われるほか、散歩マップは随時改訂しながら、日々の子どもの声掛け等に活かせるようにしている。

看護師を中心とした日々の健康管理にあたり、緊急時の迅速な対応にも備えている

保護者からの聞き取りや担任の視診により子どもの健康状態を把握するとともに、看護師が巡回して各クラスの状態を確認している。また子どもに体調の変化があれば前日の状況も踏まえて適切な配慮や対応に努めるとともに、園児管理ソフトにある保健日誌等に記録し、園全体で共有できるようにするなど、看護師を中心として園児の健康管理にあっている。嘱託医による定期的な内科健診に加え、随時連携できる体制を整えるほか、事故やケガ等の状況別の対応に応じて連絡ができる病院一覧をまとめ、保健室に掲示して緊急時の迅速な対応を備えている。

保健に関する情報を保護者へ発信し、その理解を深められるように工夫をしている

「園のしおり」には感染症やSIDSに関する情報を掲載し、入園時に看護師から詳細を説明している。毎月の保健便りでは時季に応じた感染症に関するコラムや健康維持に向けた情報を発信するなど、家庭での健康管理に役立てられるようにしている。感染症の発生時には掲示板等で発生状況を知らせるほか、行政等が発行する保健関係の予防などを「保健からのお知らせ」の場所にポスター掲示で注意を促している。なお、今年度は引取り訓練時の応急手当を体験・見学できるようにし、保護者と連携した保健指導の充実に取り組んでいる。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者とのコミュニケーションを大切にし、就労等の事情への配慮に努めている</p> <p>保護者との送迎時のコミュニケーションや連絡帳のやり取りのほか、保育参加・個人面談などを通じて各家庭の状況を把握し、園内での情報共有を図り、改善へと反映できるようにしている。職員は保護者への挨拶を大切にしながら、一言声をかけるなどして会話がしやすい雰囲気づくりに努めている。また保護者参加の主要な行事は土曜日に設定し、年度当初には年間行事予定を伝えたり、クラスごとの懇談会や園便り等でも再度伝えられるなど、働く保護者の参加の利便に配慮するほか、延長保育利用や夕食・補食の提供についても柔軟な対応に努めている。</p> <p>園の方針や保育の様子などを伝え、職員や保護者同士の交流を促している</p> <p>保育参加は午前中に保育体験をしてもらい、日頃の子どもの様子や友達とのやりとり、保育士の関わりなどを知ってもらうとともに、その後個人面談を行って個別の要望の把握にも取り組んでいる。年2回行う懇談会では子どもの発達の特徴や保育の目標、園としての考え方やクラスの活動の見通しなどを伝えるとともに、パワーポイントなどで視覚的にも子どもの様子がわかるように工夫して保護者との共通理解が図れるようにしている。またクラス内の保護者同士や職員との関係を深めたり、年齢にあった議題等で意見交換がしやすいように配慮している。</p> <p>保護者からの要望を積極的に把握し、種々の改善が行われている</p> <p>懇談会・利用者調査・個別面談のほか、日常の保護者とのやりとりから得られる要望についても各種会議等で対応の検討が行われている。また行事ごとにアンケートを取り、課題や意向・要望については係りがチェックし、職員会議で報告・検討のうえ次の計画へと引き継いでいる。今年度は玄関インターフォンでの保護者のネームプレート確認の徹底にて不審者対策の強化がなされるほか、駐輪場の変更、発表会での一定条件下での撮影許可など種々の改善に取り組み、結果や園の意向については保護者へフィードバックしている。</p>		

9 評価項目9 地域のニーズに即した子育て支援を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域向けの情報発信やイベントへの参加の呼びかけなどを行っている ミッションステートメントに掲げる「子育て支援の提供拠点オンリーワン」を目指し、地域の方が気軽に立ち寄れる場所となるように、子育て世帯への取組がさまざまな展開されている。地域子育て世帯向けサービスの提供情報は市報への掲載するほか、パートナー登録「すくすく」の登録者へのメール配信やHPでの参加の案内などによって広報をしている。地域向けの子育て情報紙「らすく」を定期的に発行し、季節のトピックスやトイレトレーニング、食事や睡眠など保護者の関心ごとについてのコラムも掲載して育児の参考となるようにしている。</p> <p>子育て世帯が気軽に利用できるような取組を通じて、地域の育児支援に努めている 一時保育事業を行っており、在園児と同様の施設設備を整え、保護者の通院やきょうだいの学校行事への参加・リフレッシュなど地域の子育て世帯が理由に関わりなく、利用が可能となっている。また年間を通じて平日の午前中に行われている園庭開放、大型遊具で遊んだり、紙芝居やダンスを楽しむことができる「お外で遊ぼう会」、保育園の給食を体験できる「キッズランチ」など、地域子育て世帯支援事業が行われている。「キッズランチ」の参加者には午前の園庭開放にも誘い掛け、おなががすいて食べることの良さも知る機会ともしている。</p> <p>地域ニーズに沿った事業展開ができるよう、内容の充実が図られている 園庭開放や「お外で遊ぼう会」を通じて交流が生まれた保護者がともに「キッズランチ」を利用し、ランチルームで談笑する姿が見られるなど、園の開放が地域子育て世帯の交流にもつなげられている。「キッズランチ」では参加者から感想・要望をアンケートで収集・記録化し、園庭開放などにおける会話などからも保護者ニーズを汲み取り、さらなる事業内容の充実につなげられるようにしている。今年度は可能な範囲でアレルギー物の一部に対応できるように、献立の配慮をしたり、すくすく広場として看護師による育児相談や身体測定を実施している。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-4	行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている
タイトル①	子どもたちがさまざまな人たちと関わったり、仲間とともにやり遂げる機会を設けている	
内容①	複数園運営の特性を活かし、年長児は法人内の系列園との交流を行い、手紙のやり取りや相互の園訪問を行い、活動をともにすることで、子ども同士のふれ合いの機会となっている。また子どもの主体性や協力する力を育むために、発表会では子どもたちが題材の選択から配役やせりふなどを考えたり、運動会では外部講師による体育指導に加え、組体操やパラバルーンの披露等、子どもたちが一致団結して行える機会を設けるなど、さまざまな行事を通して子どもの成長発達を促している。また保護者や地域の人の交えてのさまざまな行事も積極的に行っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる
タイトル②	職員主体での研鑽や情報・認識の共有に努め、組織力の向上と発揮につなげている	
内容②	「保育の質UP!!」と題した園内研修では、園全体でリズム遊びに関する専門性を高めるべく、「リミック」とリズム運動の違い、近年の子どもの身体発達の傾向などを学び、実際に音楽に合わせて取り組むことで、各職員の遊びや活動の引き出しを広げている。また現場からの要望も踏まえ短時間職員との連携強化にも取り組み、子どもや保育に関する情報・認識の共有を通じ、配慮が必要な子どもの個別支援をより細やかに行えるようにしている。例年行うTシャツ制作でも職員からデザイン案を募るなど、「現場全体で関わる」風土の活性化に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている
タイトル③	緊急時の対応に備え、子ども・保護者ともに危険回避の意識づけを行っている	
内容③	職員や保護者との連携を図りながら、日々の子どもの健康状態を把握し、看護師を中心として健康管理が行われるほか、体調変化やケガ等の適切な配慮や対応ができるように各種掲示等で緊急時の迅速な対応に備えている。また子ども・職員ともにわかりやすいように身の回りに潜む危険を可視化し、日々の生活の場面ごとで活用しながら、衛生的かつ安全に過ごせるようにしている。毎月の避難訓練では災害時の避難のポイントなども子どもに伝えるとともに、引き取り訓練時には保護者も応急手当を体験・見学できるようにしている。	

No.		特に良いと思う点
1	タイトル	さまざまに創意工夫された保育環境の中で、年齢や発達に沿った日々の保育活動の充実が図られている
	内容	3歳までの保育室はユニット型になっており、活動・食事・睡眠などの基本的な生活習慣を子どもの発達状況に応じ、柔軟に援助できるよう設けられているほか、4・5歳児の部屋はパーティションを活用して雨天での活動の際には広く使用するなど、状況によって柔軟に活用できる造りとなっている。また1階エントランスには生き物を身近に感じ、育てる環境を整えるほか、絵本のコーナーの設置、玄関ホール壁面を活用してのマグネット遊びができる場所や屋上園庭での遊びなど、園舎に施されたさまざまな工夫が、保育の充実に活かされている。
2	タイトル	年齢・発達に応じた多彩な食育活動を実施し、子どもたちが楽しく体験しながら食に対する知識と意欲を高められるようにしている
	内容	4・5歳児はランチルームを活用し、自分たちで配膳を行う機会を設けるほか、年長児では毎日の「アナウンス当番」の子どもが、献立の内容を全クラスに向けて放送する役割を担っている。また夏野菜や冬野菜など季節に応じた野菜を栽培し、収穫した野菜は給食の材料として提供したり、クッキング保育につなげるほか、職員が「食育忍者」に扮して食にちなみさまざまな啓発を行ったり、地域交流として行う給食体験「キッズランチ」でも当番児が配膳を手伝うなど、年齢・発達に応じた食育活動を多彩に実施し、子どもの食に対する知識と意欲を高めている。
3	タイトル	「みんなが笑顔でいられる園」であることを目指し、さまざまな意見を真摯に受け止め、さらなる向上に取り組む姿勢を続けている
	内容	子ども・保護者・職員など園に関わる方が「みんなが笑顔でいられる園」であることを目指し、常により良い運営や保育提供等ができるように改善や工夫を行っている。会議や各チームでの検討などから職員の活発な提案が生じ、地域のニーズを踏まえ、子育て支援事業の内容の充実を図るほか、マニュアルの更新、給食会議の定例化などの改善事例へとつながっている。さらに保護者からの要望も積極的に収集し、行事内容や事前周知の充実が図られるなど、さまざまな視点からの意見を真摯に受け止め、さらなる向上に取り組む姿勢を続けている。
No.		さらなる改善が望まれる点
1	タイトル	園の取組や保護者の価値観の多様性をより積極的に発信し、透明性や保護者との相互理解のさらなる向上につなげられたい
	内容	開園3年目の今年度は、短時間職員を含む組織内の連携強化に取り組むなど、組織力向上を図るほか、保護者との相互理解にも引き続き注力し、利用者調査では昨年度・今年度も有効回答者の9割が総合的に満足していると答えている。一方で保護者の一部の要望等への対応を課題とし、結果として組織内・対保護者とも信頼関係に負の影響を及ぼしていることもうかがえる。経営層のリーダーシップのもとで、園の取組や保護者の価値観の多様性をより積極的に発信するなど、透明性と協力関係の向上を図ることにも、一考の余地はあると思われる。
2	タイトル	各指導計画のさらなる充実と活用を図る観点で検討を図り、保育の質の向上につなげることが期待される
	内容	子ども一人ひとりの定期的な発達経過の確認・記録、2歳児までの個別指導計画作成などのほか、月2回の全体職員会議や幼児・乳児の各会議で情報を共有するなど、それぞれの子どもへの細やかな発達援助を実現するための配慮を行うほか、保育課程のもとで年・月・週の各指導計画を作成・実践し、日々の状況を記録している。保育課程の活用や各計画の整合、計画立案や記録のあり方など、計画をより実践に活かし、保育の充実につなげる観点での課題についてさらに検討を図り、質の向上に反映させることが期待される。
3	タイトル	昨今の社会や業界の趨勢を踏まえ、個人情報等の利用における職員・保護者との認識共有に向けたさらなる検討も期待したい
	内容	職員には短時間を含む全員から入職時に守秘義務等を含む誓約書を取得するほか、全職員に配付し、年度開始時に確認する「職員のしおり」にも「法人職員に求める自覚」として機密漏洩の禁止を定め、個人情報関連の各種規程も策定されている。昨今の社会や業界の趨勢を踏まえ、SNS上での守秘義務徹底についても職員への指導に努めているが、これらを含め、実務的な観点で情報の取り扱いにおける禁止・遵守事項を明文化し、周知徹底を図る取組も検討されたい。同様に保護者への利用目的や開示請求対応の通知についても、さらなる検討が期待される。

